



はじめに.....	1
Apache Log4j RCE の脆弱性.....	2
インストール.....	2
サービスパックを適用する前に.....	2
サービスパックのインストール.....	5
サービスパックのロールバック.....	5
サービスパックの適用後.....	6
10.5.1.1 の修正された問題と実装された拡張要求.....	6
Data Engineering Integration の修正された問題 (10.5.1.1)	6
Data Engineering Streaming で解消された問題 (10.5.1.1)	7
Enterprise Data Catalog の修正された問題と実装された拡張要求 (10.5.1.1)	7
10.5.1.1 の既知の問題.....	13
Data Engineering Integration の既知の問題 (10.5.1.1)	13
Data Engineering Streaming の既知の問題 (10.5.1.1)	13
Data Privacy Management の既知の問題 (10.5.1.1)	14
Enterprise Data Catalog の既知の問題 (10.5.1.1)	14
Enterprise Data Preparation の既知の問題 (10.5.1.1)	16
サードパーティ製品に関する既知の問題 (10.5.1.1)	16
10.5.1.1 に統合された緊急バグ修正.....	17
Informatica グローバルカスタマサポート.....	17

はじめに

Informatica 10.5.1.1 は、複数の緊急バグ修正、制限された機能、既知の問題、およびバグ修正に関する情報を含んだサービスパックです。

このサービスパックは、Informatica Data Quality とすべての Data Engineering 製品、Data Security 製品、および Data Catalog データカタログ製品をサポートしています。

Linux 用のサービスパックは、[Informatica Network](#) からダウンロードできます。

注: 更新された機能がガイドに含まれていない場合でも、製品ドキュメントはメジャーリリースごとに更新されます。更新された機能がガイドに含まれている場合にのみ、サービスパックと HotFix の製品ドキュメントが更新されます。サービスパックまたは HotFix のガイドが見つからない場合は、以前のバージョンを参照してください。

Apache Log4j RCE の脆弱性

Informatica 10.5.1.1 は、脆弱な Log4j ライブラリから JndiLookup クラスを削除することにより、CVE-2021-44228 および CVE-2021-45046 の Log4j RCE の脆弱性に対処します。

現在のバージョンの Informatica で修正手順を完了している場合は、それ以上のアクションを実行する必要はありません。

現在のバージョンで修正手順を完了していない場合は、[「EBF-23143 を適用した Log4j のセキュリティの脆弱性の修正」 \(ページ 2\)](#)に説明されているとおり、10.5.1.1 を適用する前に、EBF-23143 を適用する必要があります。この手順を完了した後は、10.5.1.1 の適用後にそれ以上のアクションを実行する必要はありません。

インストール

サービスパックを適用する前に

アップグレードパスの確認

バージョン 10.5.1.1 は、バージョン 10.5.1 に適用するサービスパックです。Informatica バージョン 10.5.1 にアップグレードするためにサポートされているアップグレードパスについては、『[10.5.1 Upgrade Paths](#)』ドキュメントを参照してください。

EBF-23143 を適用した Log4j のセキュリティの脆弱性の修正

EBF-23143 を Linux 64 ノードに適用して、Informatica インストールディレクトリの Metadata Manager サブディレクトリにある Apache Log4j の脆弱性を修正します。

注: 10.5.1 インストールですでに EBF-23143 を適用している場合は、この EBF を再度適用する必要はありません。

重要: Metadata Manager を使用しない場合でも、この EBF を適用してください。

<http://tsftp.informatica.com> から EBF をダウンロードできます。TSFTP サーバーにログインする手順については、『[Knowledge Base article 497394](#)』を参照してください。

サービスパックファイルのダウンロード

Informatica は、サービスパックを .tar および .zip 形式で提供しています。1 つ以上のインストーラパッケージをダウンロードして、サービスパックをインストールまたはロールバックします。サービスパックをダウンロードした後に、ファイルのコンテンツを展開します。このサービスパックは、Linux のインストールに使用できます。このサービスパックは、Informatica Developer および PowerCenter クライアントの Windows インストールでも使用できます。

サービスパックには次のファイルが含まれています。

Input.properties

Informatica がインストールされるディレクトリを指定したファイル。サービスパックはこのディレクトリにインストールされます。このディレクトリパスでファイルを更新します。また、このファイルには、サービスパックをアンインストールする場合に設定できるロールバックプロパティが含まれています。

install.bat

Windows マシン上の Developer tool 用に指定したディレクトリにサービスパックをインストールします。このファイルは、Windows インストーラに含まれています。

install.sh

Linux マシン上の指定したディレクトリにサービスパックをインストールします。このファイルは、Linux インストーラに含まれています。

サービスパックを適用するには、サービスパックインストーラ、Informatica Developer インストーラ、およびコマンドラインユーティリティパッケージをダウンロードします。

サービスパックインストーラ用の次のパッケージをダウンロードします。

- informatica_10511_server_linux-x64.tar
Redhat Enterprise Linux、Ubuntu、SUSE 12、および Amazon Linux 2 インストールのアップデートが含まれます。

Informatica Developer **の次のパッケージをダウンロードします。**

- informatica_10511_client_winem-64t.zip
Developer tool インストールのアップデートが含まれます。

コマンドラインユーティリティ用の次のパッケージをダウンロードします。

- informatica_10511_cmd_utilities_linux-x64.zip
Redhat Enterprise Linux、Ubuntu、SUSE 12、および Amazon Linux 2 インストールのアップデートが含まれます。

Enterprise Data Catalog の前提条件の完了

Informatica 10.5.1.1 を適用する前に、次のセクションに記載されているアクションを実行します。

クラスタ検証ユーティリティの実行

バージョン 10.5.1.1 の Informatica クラスタ検証ユーティリティをダウンロードして実行し、Enterprise Data Catalog の前提条件を検証します。

SSH サーバー構成ファイルの MaxStartups パラメータの設定

すべてのクラスタノードで、/etc/ssh/sshd_config ファイルを開き、MaxStartups パラメータの値を 30:30:100 に設定して、未認証の同時 SSH 接続の数を 30 に増やします。

未認証の SSH 接続は、ユーザー認証なしで確立された SSH デーモンへのソケット接続です。

パラメータを設定した後、次のコマンドを使用して sshd デーモンを再起動します: `sudo systemctl restart sshd`。

カタログサービスのバックアップ

infacmd ldm backupContents コマンドを使用してカタログサービスをバックアップします。カタログサービスのバックアップコマンドの詳細については、『コマンドリファレンス』の["backupContents"](#)を参照してください。

注: サービスパックと累積パッチを含む EnterpriseData Catalog バージョン 10.4 または 10.4.1 からバージョン 10.5.1 にアップグレードした場合は、カタログサービスが実行されているノードから次の JAR ファイルを削除します: <Informatica installation directory>/logs/<NodeName>/services/CatalogService/<CatalogServiceName>/migrate/restore.jar

詳細スキャナサーバーの停止

次のコマンドを実行して、詳細スキャナサーバーを停止します: <Informatica installation directory>/services/CatalogService/AdvancedScannersApplication/app/server.sh stop

詳細スキャナリポジトリのバックアップ

標準のデータベースバックアップ手順を使用して、詳細スキャナリポジトリをバックアップします。

注: サービスパックインストーラを使用して、以前のバージョンの詳細スキャナに戻すことはできません。

Data Privacy Management の前提条件の完了

User Behavior Analytics を有効にし、SSL と認証を含むエラスティック検索 X-Pack バージョンを使用する場合は、次の手順を実行します。

1. 次の場所から elasticsearch.tar.gz ファイルをバックアップします: <Informatica installation directory>/services/InfraClusterService/ServiceBinaries
2. 公式の Apache ダウンロードサイトから log4j 2.17.0 jar ファイルをダウンロードします。
3. エラスティック検索 tar ファイルバックアップの Log4j 2.11.x jar ファイルを Log4j 2.17.0 jar ファイルに置き換えます。
jar ファイルは次のディレクトリに保存されます: elasticsearch.tar.gz/elasticsearch-7.9.1/lib

input.properties ファイルの更新

input.properties ファイルには、Informatica のインストール先を指定するプロパティと、サービスパックインストーラの実行時に行うアクションを定義するプロパティが含まれています。サービスパックのインストールまたはロールバックの前に、これらのプロパティを更新します。ダウンロードしたそれぞれのサービスパックのファイルを更新します。

1. サービスパックファイルを展開します。
2. サービスパック内の input.properties ファイルを見つけます。
3. ファイルの `DEST_DIR` プロパティを、Informatica ルートディレクトリのパスで更新します。
 - Linux マシンでは、パスを次の形式で設定します。
`DEST_DIR=/home/infacuser/<version number>`
 - Windows マシンでは、パスを次の形式で設定します。
`DEST_DIR=C:\\Informatica\\<version number>`
4. すべての製品コンポーネントや単体のコンポーネントのサービスパックを適用またはロールバックできます。input.properties ファイルには、各製品コンポーネントの識別子が含まれています。すべてのコンポーネントのサービスパックをインストールするには、各識別子をデフォルト値の **0** に維持します。

サービスパック内の特定のコンポーネントをインストールまたはロールバックするには、次の操作を行います。

- 適用するコンポーネントに関連付けられているコメントタグ (#) を削除します。
- Data Engineering 製品の場合、`BDM_ONLY` を 1 に設定します。
- Enterprise Data Catalog の場合、`EDC_ONLY` を 1 に設定します。

- Enterprise Data Preparation の場合、EDP_ONLY を 1 に設定します。

複数の製品がインストールされている場合は、次の順序で個々のコンポーネントを適用します。

1. Data Quality または Data Engineering 製品
2. Enterprise Data Catalog
3. Enterprise Data Preparation
4. Data Privacy Management

サービスパックを適用した後に、インストーラを使用してサービスパックを自動的にロールバックすることはできません。サービスパックをロールバックするには、「[「サービスパックのロールバック」\(ページ 5\)](#)」の節に記載されている手順を実行する必要があります。

5. ファイルを保存し、閉じます。

サービスパックのインストール

インストーラファイルを実行して、サービスパックをインストールします。

1. すべての Informatica アプリケーションを閉じ、すべての Informatica サービスを停止します。
2. サービスパックファイル内でインストーラファイルを見つけて、そのファイルを展開します。
 - Linux システムの場合、サービスのインストーラファイルは install.sh です。
 - Windows システムの場合、クライアントのインストーラファイルは install.bat です。
3. インストーラを実行します。

サービスパックのロールバック

すべてのコンポーネントまたは特定のコンポーネントに適用したサービスパックをロールバックすることができます。

1. input.properties ファイルで、ROLLBACK プロパティの値を設定します。サービスパックをロールバックするには、この値を **1** に設定します。

サービスパックをインストールまたはロールバックするときに、インストーラはデフォルトではすべてのコンポーネントを適用します。

サービスパック内の特定のコンポーネントをインストールまたはロールバックするには、次の手順を実行します。

- 適用するコンポーネントに関連付けられているコメントタグ（#）を削除します。
- Informatica Data Quality または Data Engineering 製品の場合、BDM_ONLY を 1 に設定します。
- Enterprise Data Catalog の場合、EDC_ONLY を 1 に設定します。
- Enterprise Data Preparation の場合、EDP_ONLY を 1 に設定します。

複数の製品がインストールされている場合は、次の順序で個々のコンポーネントをロールバックします。

1. Data Privacy Management
2. Enterprise Data Preparation

3. Enterprise Data Catalog
 4. Informatica Data Quality または Data Engineering 製品
2. ファイルを保存し、閉じます。

サービスパックを Enterprise Data Catalog バージョン 10.5.1 に適用した後に sudoers ファイルを変更した場合は、Informatica クラスタサービスを有効にする前に tee コマンドと sed コマンドの sudo 権限を指定したことを確認してください。

サービスパックの適用後

Data Privacy Management タスクの完了

User Behavior Analytics を有効にし、SSL と認証を含むエラスティック検索 X-Pack バージョンを使用する場合は、サービスパックの適用後に次の手順を実行します。

1. <Informatica installation directory>/services/InfacClusterService/ServiceBinaries/ES/elasticsearch.tar.gz ファイルを、インストール前にバックアップした tar ファイルに置き換えます。
2. Informatica クラスタサービスをホストするマシンにログインし、次のコマンドを実行してエラスティック検索をシャットダウンします。
`sudo systemctl stop elasticsearch`
3. サービスパックの適用後にドメインを開始した場合は、次の手順を実行します。
 - a. Administrator ツールにログインし、Informatica クラスタサービスを強制終了モードまたは完了モードで再起動します。
 - b. Informatica クラスタサービスが起動したら、カタログサービスが起動することを確認します。サービスが起動しない場合は、サービスを再起動します。
4. サービスパックの適用後にドメインを開始しなかった場合は、ドメインを開始します。

10.5.1.1 の修正された問題と実装された拡張要求

Data Engineering Integration の修正された問題（10.5.1.1）

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
OCON-28646	Spark エンジンで Sqoop マッピングを実行して、テーブル名に join という単語を含むデータを Oracle からインポートすると、マッピングが次のエラーで失敗する。 NF0: コンパイルされたファイルの削除が失敗し、例外が発生しました: インポートには --table または --query が必要です。(または、sqoop import-all-tables を使用してください。)

Data Engineering Streaming で解消された問題（10.5.1.1）

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
IIS-5382	Avro および Parquet 形式のファイルターゲットが、NULL 値の行をスキップする。
IIS-5180	Cloudera CDP バージョン 7.2 でストリーミングマッピングを実行すると、[モニタ] の [サマリ統計] ビューにジョブの詳細が表示されない。

Enterprise Data Catalog の修正された問題と実装された拡張要求（10.5.1.1）

修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
EIC-58008	複数の区切り文字があるヘッダー行を含む CSV ファイルの場合、ファイルシステムリソースが失敗する。
EIC-58177	ビジネス用語の関連付けのリソースをスキャンすると、ビジネス用語リソースが次のエラーで失敗する: NullPointerException
EIC-58179	複数のジョイナを使用する複雑なマッピングでは、Informatica Intelligent Cloud Services - Cloud データ統合リソースのリネージュの一部が見つからない。
EIC-58356	PowerCenter リソースを実行すると、pmrep コマンドが予期しない条件で失敗し、リソースが失敗する。
EIC-58204	Amazon S3 バケットリソースで AWS Identity and Access Management (IAM) ロールを設定した場合、Parquet 以外のファイルの検出が Spark エンジンとネイティブエンジンの両方で失敗する。
EIC-58125	別のコンテンツまたはパッケージを選択して IBM Cognos リソースを編集すると、デフォルトのコンテンツが選択されたままになる。
EIC-58026	二重引用符を使用してビジネス用語を検索すると、[検索結果] ページが応答を停止する。
EIC-58027	リソースを初めて開いたときに、リソースの [概要] タブにそのリソースに関連付けられているユーザーが表示されない。

問題	説明
EIC-58215	カスタム属性を含むリソースを保存しようとする と、次のエラーが表示される。 インデックス: 0、サイズ: 0
EIC-58203	ビジネス用語をアセットに関連付けるときに、 Enterprise Data Catalog がカラムに重複するビ ジネス用語を割り当てる。
EIC-58209	データ所有者とデータスチュワードをアセットに 追加する場合、データ所有者とデータスチュワ ードの完全なリストを表示することができない。
EIC-57275	PowerCenter パラメータファイルのユーティリ ティログに、ファイルが見つかりません例外のスタッ クトレースが表示される。
EIC-49033	次の問題が Enterprise Data Catalog に表示され る。 <ul style="list-style-type: none"> - 同じユーザーが複数のセキュリティドメインの 一部である場合、[概要] タブの [人員] セク ションで割り当てられたデータ所有者、デー タスチュワード、および主要テーマの専門家が、 個別のエントリとして表示されない。 - 特定のセキュリティドメインのユーザー、デー タ所有者、データスチュワード、または主要テ ーマの専門家のロールを割り当てる場合、その ロールは別のセキュリティドメインのユーザー に割り当てられる。 この問題は、次のシナリオで発生する。 <ul style="list-style-type: none"> - 異なるセキュリティドメインに関連付けられた 同じ名、姓、およびユーザー ID を持つ複数のユ ーザーがいる。 - 同じセキュリティドメインに関連付けられた同 じ名、姓、および異なるユーザー ID を持つ複数 のユーザーがいる。
EIC-58247	Axon リソースの [概要] タブで、 [リソースの内 容] セクションに、Axon Policies アセットが Axon Polics として誤って記載されている。
EIC-58039	一部のフォルダで PowerCenter リソースリポジト リのスキャンが失敗する。
EIC-58038	類似したリソースをスキャンすると、自動接続割 り当てによって有効な接続が上書きされる。
EIC-58037	PowerCenter リソースをロードすると、次のエラ ーで失敗する: MITI.MIRException: Illegal ArgumentTheDiDesignContent'Directory[DirectoryStru ctureModel]/Folder[Folder]/Workflows[Folder]/ WF_TEST[DiDesignContent]' already contains aClientOfDiEmbeddingwith this Object: 'ObjectName'

問題	説明
EIC-58031	バージョン 10.4.1.3 から 10.5.1.1 にアップデートした後、プロキシユーザーのすべての Oracle Exadata リソースのメタデータスキャンが失敗する。
EIC-58061	Informatica Intelligent Cloud Services - Cloud データ統合リソースが xml を正常に解析できない。リソースが次のエラーで失敗する: NullPointerException
EIC-58289	Catalog Administrator で、[リモートパスのファイル] オプションを選択してカスタムリソースを実行すると、システムは Mongo ファイルストアでのみファイルを検索し、リソースは次のエラーで失敗する: 入力場所にファイルが見つかりません:
EIC-58358	Informatica Intelligent Cloud Services - Cloud データ統合 (IICS-CDI) リソースのリネージュが、複数のジョイナを持つ複雑なマッピングによってロードされたテーブルの一部のフィールドを表示しない。
EIC-57075	HiveRowCountScannerExecutor ジョブのエラーメッセージが、スキャナ実行例外を正しく報告できない。
EIC-58405	パーティション化されたファイルの検出が、MapReduce Hadoop ディストリビューションタイプである HDFS リソースの Enterprise Data Catalog 10.4.1.3.7 バージョンで機能しない。
EIC-57902	Enterprise Data Catalog で、Idmcatalog WAR ファイルの underscore-min.js ファイルによって脆弱性が生じる。
EIC-57838	Enterprise Data Catalog の 10.5.x バージョンにアップグレードすると、エクスポートユーティリティが応答を停止するため、カタログのバックアップが失敗する。
EIC-58029	すべてのワークブックで Tableau リソースを実行した場合に、ソースカラムが [リネージュと影響] タブに表示されない。
EIC-58028	Enterprise Data Catalog ツールが、Tableau リソースの完全なリネージュと影響情報を表示しない。この問題は、Tableau リソースが接続オブジェクトを抽出できないために発生します。
EIC-58010	Catalog Administrator ツールで Microsoft Azure Blob の代わりに Azure Data Lake Storage Gen2 をストレージタイプとして使用すると、Microsoft Azure SQL データウェアハウスリソースのプロファイリングが失敗する。

問題	説明
EIC-58007	リソースの Catalog Administrator ツールでサンプリングと一意キー推測プロファイリングが有効になっている場合、Amazon Redshift リソースのプロファイリングが失敗する。
EIC-57995	infacmd ldm で ldm migrateContents コマンドオプションを使用してコンテンツを移行すると、カタログサービスが失敗し、次のエラーメッセージが表示される: キューがいっぱいです。
EIC-58275	Enterprise Data Catalog ツールは、Tableau リソースのデータソースレベルで誤ったリネージュと影響の情報を表示する。
EIC-58494	データ型 varchar(max) のカラムを持つテーブルのある Microsoft Azure SQL データウェアハウスリソースのプロファイリングが失敗する。
EIC-57825	大量のデータを含むワイドカラムを持つ Apache Hive リソースの類似性プロファイリングが失敗する。
EIC-58040	ルールベースのデータドメインを作成する場合に、Catalog Administrator ツールは通常の Java 式を受け入れない。
EIC-58009	SAP HANA リソースのテーブル名にスラッシュ (/) が含まれている場合、Enterprise Data Catalog ツールが、[概要] カラムに値の頻度と同様のカラムの情報を表示しない。
IDE-5437	サンプリングオプションとしてランダムなパーセンテージで Hive リソースをプロファイリングすると、パフォーマンスの問題が発生する。これらのパフォーマンスの問題は、非常に大きいテーブルと小さいテーブルに対して同じサンプリングオプションを使用して Hive リソースをプロファイリングするときに発生します。
EIC-58178	高可用性が有効になっている Informatica ドメインの Enterprise Data Catalog では、複合データドメイン検出ジョブが正常に実行されない。
EIC-58246	Databricks ソースでのすべての行のプロファイリングが、SQL 例外で失敗する。この問題は、SQL クエリの無効な文字が原因で発生します。
EIC-57316	データベーススクリプトリソースをパージしても、Enterprise Data Catalog ツールがアセット間のリネージュと影響の情報を削除しない。

問題	説明
EIC-57917	データドメインリソースが Catalog Administrator ツールで失敗し、次のエラーメッセージが表示される: ExecuteThread- {Task_DataDomain_DataDomainSyncScanner_DataDomainSyncExecutor}] WARN com.infa.products.ldm.ingestion.client.impl.PublisherRequest- docId [DataDomainGroup_PII]のデータ交換ドキュメントは、データ検証ステップでエラー [com.infa.products.ldm.ingestion.exceptions.DataValidationException: [DataValidationException_00009] で失敗したため無視されます。ID [DataDomainGroup_PII]の交換ドキュメントのデータ検証は次のエラーで失敗しました。[プロパティ [DataDomainGroup://PII]は、どのモデルにも登録されていない属性 [com.infa.ldm.profiling.dataDomainLastModifiedTime]]を参照しています。]
EIC-58271	カタログサービスを再起動すると、Catalog Administrator ツールでデータドメインリソースの無効なスケジュールが有効になる。
DAA-2479	Data Asset Analytics リポジトリは、分析データの入元に予想よりも時間がかかる。
EIC-58126	スケジュールされたリソースを削除してから、同じ名前でリソースを再作成すると、次のエラーメッセージが表示される: java.lang.RuntimeException: 名前が別のオブジェクトと競合しています。一意のオブジェクト名を指定してください。
EIC-57777	多数のタスクが存在する場合、 【監視】 タブの 【タスク】 ペインにアイテムが表示されない。
EIC-57874	データドメインリソースのスケジュールを無効にした後、カタログサービスをリサイクルすると、スケジュールが再び有効になる。
EIC-57877	Scanner_Dependencies.zip ファイルの抽出が失敗した場合、ICS.log ログファイルにエラーメッセージが表示されない。
EIC-57563	クラスターノードを再起動した後に、Informatica クラスターサービスに関連付けられたサービスがランダムな順序で開始される。
EIC-57422	複数のリンクに接続を割り当てると、特定のリンクが誤って 【自動割り当て接続】 タブに移動される。
EIC-57394	INFA_TRUSTSTORE および INFA_TRUSTSTORE 環境変数を設定していない場合、infacmd ldm backupContents コマンドを使用したカタログバックアップが失敗する。表示されるエラーメッセージには、十分な情報が含まれていない。

問題	説明
EIC-57353	カスタム SSL 証明書を置き換えた場合、カタログのリストアが失敗する。 回避策: カスタム SSL 証明書を置き換えた後、Informatica クラスタサービスとカタログサービスを有効にします。
EIC-57274	カラムの類似性データの移行が失敗した場合、移行ログファイルにエラーメッセージまたは警告メッセージが表示されない。
EIC-56565	多数のリソースに同時に権限を割り当てようとすると、カタログサービスがメモリ不足エラーで失敗する。
EIC-58348	Enterprise Data Catalog のバージョン 10.4.1 からアップグレードした後、IBM DB2 モデルに基づくカスタムリソースの大文字と小文字の区別が true に設定される。
EIC-58589	変更を加えずに SAP BusinessObjects リソースを再度スキャンすると、Microsoft SQL Server と SAP BusinessObjects リソース間のリネージュが失われる。
MDX-23693	アップグレード後に既存の詳細スキャナ設定を実行すると、詳細スキャナツールに処理情報が表示されない。 回避策: 次のディレクトリで処理情報を確認できます: <code>\$<Informatica installation directory>/AdvScannersWorkspace/processings</code>
MDX-25099	Talend コネクタが、誤ったアカウント名を使用して Snowflake リソースの接続キーを計算する。

実装された拡張要求

次の表に、実装された拡張要求を示します。

問題	説明
EIC-58207	属性の name パラメータと referenceAttributes モデル情報 REST API を使用して、属性と参照属性のリストをフィルタできる。
EIC-57713	Informatica クラスタサービスが、scp の代わりに rsync を使用して、バイナリや証明書などのファイルをクラスタノード間で転送する。
MDX-21709	接続を定義せず、コネクションレス型アプローチでスキャンが発生した場合、詳細スキャナツールが接続を作成する。ログに警告メッセージが表示されます。

10.5.1.1 の既知の問題

Data Engineering Integration の既知の問題（10.5.1.1）

以下の表に 10.5.1.1 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
BDM-35089	Spark エンジンでルックアップトランスフォーメーションを含むマッピングが実行されているときに、Source_Rows と Target_Rows の数が誤って表示される場合がある。 回避策: Blaze エンジンでマッピングを実行します。
BDM-39284	Spark ランタイムエンジンを使用して実行されたマッピングの集計ログをダウンロードしようとする、環境が EN 以外の言語に設定されている場合、ダウンロードが失敗する。
BDM-39260	次の条件が当てはまる場合、Blaze エンジン上で実行されるマッピングが失敗する。 <ul style="list-style-type: none">- マッピングに、ソースデータをジョイナトランスフォーメーションに渡す前にソートするソータートランスフォーメーションが含まれている。- ソータートランスフォーメーションとジョイナトランスフォーメーションが、静的ポートを使用して接続される。
OCON-28926	Cloudera CDP バージョン 7.1.7 ディストリビューションで Scoop マッピングを実行して、Microsoft SQL Server との間でデータの読み取りまたは書き込みを行うと、マッピングは失敗し、次のエラーが発生する。原因: java.security.cert.CertificateException: 証明書がアルゴリズムの制約に従っていません

Data Engineering Streaming の既知の問題（10.5.1.1）

以下の表に 10.5.1.1 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
IIS-5716	Spark ジョブサーバーモードで、前のジョブが連続して実行されるたびに Spark ジョブリストに表示される。
IIS-5715	Hortonworks HDP、Azure HDInsight、および MapR Hadoop ディストリビューション用の Spark バージョン 2.3.x を使用してストリーミングマッピングでデータをプレビューすると、Spark ジョブサーバーおよび Spark サブミットモードでデータプレビュージョブが失敗する。
IIS-5702	Kafka ソースで JSON 形式の配列を含むストリーミングマッピングでデータをプレビューすると、マッピングが失敗する。
IIS-5694	次のデータ品質トランスフォーメーションを使用してストリーミングマッピングでデータをプレビューすると、マッピングが失敗する。 <ul style="list-style-type: none">- アドレスバリデータ- 分類子- パーサー- 標準化

問題	説明
EIC-57621	<p>バージョン 10.4.1 からバージョン 10.5.1 にアップグレードした後、Enterprise Data Catalog ツールの [リソース内のアセット] ページに、Business Glossary の推奨事項が表示されない。</p> <p>回避策: この問題を解決するには、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - アップグレード後、カタログサービスを有効にする前に、カタログサービスに次のカスタムプロパティを追加します: LdmCustomOptions.scanner.systemScannerMinutelyRecurrence.DataDomainPropagation.DDPScanner = 999999。 - コンテンツを移行する前に、データドメインプロパゲーションリソースのスケジュールが無効になっていることを確認してください。 - コンテンツを移行した後、アップグレード後にデータドメインプロパゲーションリソースが実行されていないことを確認してください。
EIC-58536	Catalog Administrator ツール用に設定されたセッションタイムアウト値を変更することができない。
EIC-58627	[アプリケーション設定] ページの Name 属性を有効または無効にすることができない。
MDX-25323	<p>IBM InfoSphere DataStage 詳細スキャナを実行すると、次のエラーが表示される: 遅延 PL/SQL スクリプトの処理に失敗しました</p> <p>com.compactsolutionsllc.cdmc.app.modules.exceptions.InvalidInputException: スクリプトを解析できません。</p>
EIC-58424	Google BigQuery リソースのカラムは、カタログ内の位置ではなく、アルファベット順に並べられている。
EIC-57492	<p>カタログサービスが実行されているノードで dnsdomainname コマンドが使用できない場合、サービスは次のエラーで失敗する: エラー "java.lang.RuntimeException: 失敗: HTTP エラーコード : [500]"</p>
EIC-58263	<p>カタログデータのバックアップに SEARCH ストアが含まれていない場合、サービスパックを適用またはロールバックすると、バックアップの検証はエラーメッセージなしで失敗する。</p>
EIC-58605	アセットデータをテーブルの [概要] タブから Tableau Data Extract ファイルにエクスポートするとエラーが発生する。
EIC-58630	Google Chrome のシークレットモードで Enterprise Data Catalog プラグイン拡張機能にアクセスすることができない。

Enterprise Data Preparation の既知の問題 (10.5.1.1)

以下の表に 10.5.1.1 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
IDL-18655	Cloudera Data Platform (CDP) Isilon セットアップで Enterprise Data Preparation を使用している場合、アクティブなマップレットの実行が権限エラーで失敗する。

サードパーティ製品に関する既知の問題 (10.5.1.1)

以下の表に 10.5.1.1 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
BDM-39256、 BDM-39251	次の条件が当てはまる場合、Cloudera CDH バージョン 7.1 クラスタで実行されるマッピングが失敗する可能性がある。 <ul style="list-style-type: none">- マッピングが、LLAP が有効になっている Hive データオブジェクトとの間で読み書きを行う。- マッピングが Spark エンジンで実行されている。 次のエラーが表示される場合がある。 原因: java.lang.NoSuchMethodError: org.apache.hadoop.hive.llap.FieldDesc.getTypeInfo()Lshadehive/org/apache/hadoop/hive/serde2/typeinfo/TypeInfo;原因: java.lang.NoSuchMethodError: org.apache.hadoop.hive.llap.FieldDesc.getTypeInfo()Lshadehive/org/apache/hadoop/hive/serde2/typeinfo/TypeInfo; at com.hortonworks.spark.sql.hive.llap.util.SchemaUtil.convertSchema(SchemaUtil.java:27) Cloudera チケットの参照番号: 825814
BDM-39163	TO_DATE 関数が、Spark エンジンで実行されるマッピングが Hive テキストテーブルを Hive Parquet に変換するときに、日付 0001-01-01 を 0002-01-01 としてレンダリングする。この問題は、Amazon EMR 5.20、HDInsight 3.1、Cloudera CDP、および Dataproc 2.0 を使用して確認されました。 Spark チケットの参照番号: SPARK-25919、SPARK-36459。

問題	説明
BDM-38954、 BDM-38938	<p>Cloudera CDP パブリッククラウドクラスタで実行されるデータエンジニアリングジョブのログファイルを集計すると、データ統合サービスは次の状況でログを集計できない。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ジョブが、Blaze または Spark エンジンで実行されるマッピングである。 - ジョブが、Spark エンジンで実行されるデータプレビュージョブである。 <p>回避策: アプリケーションの状態が <i>[実行中]</i> または <i>[完了]</i> の場合、ジョブを実行するノードで次のコマンドを実行します。</p> <pre>kinit -fkt <Kerberos keytab> <Service Principal Name></pre> <p>Cloudera チケットの参照番号: 817615</p>
BDM-38934	<p>Apache Knox 認証を使用する Cloudera CDP パブリッククラウドクラスタで実行されるデータエンジニアリングジョブのログファイルを集計すると、ジョブはノードマネージャからのログを集計できない。ログの集計が次のエラーで失敗する。</p> <pre>SEVERE: [CORE_0003] An internal exception occurred with message: java.net.ConnectException: Connection refused (Connection refused)</pre> <p>Cloudera チケットの参照番号: 817524</p>

10.5.1.1 に統合された緊急バグ修正

Informatica では、以前のリリースの緊急修正（EBF）をバージョン 10.5.1.1 に統合しました。これらの EBF では、以前のリリースで見つかった問題に対する修正を提供しています。

バージョン 10.5.1.1 に統合された EBF の一覧については、次の Informatica Knowledge Base の記事を参照してください:

https://knowledge.informatica.com/s/article/What-are-the-Emergency-Bug-Fixes-EBFs-merged-into-Informatica-10511?language=en_US

Informatica グローバルカスタマサポート

グローバルカスタマサポートにお問い合わせいただく場合は、電話または Informatica Network からご連絡ください。

それぞれの地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号については、Informatica Web サイト

(<https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html>) を参照してください。

Informatica Network のオンラインサポートリソースについては、<https://network.informatica.com> の eSupport オプションをご確認ください。